

モンゴルという国から考える国家発展の課題（第3回）

中央大学特任教授、千葉工業特別教授
元モンゴル駐箚特命全権大使

清水 武則



モンゴルでの学び

私が大学を卒業し、モンゴルの専門家になるべく外務省に入省したのは一九七五年のことです。英國ヨークシャーにあるリーズ大学で一年間、英語ではなくモンゴル語を学び、残りの一年をモンゴル国立大学の特別クラスで、ベトナム人の留学生とモンゴル語を学びました。モンゴルは当時ソ連の強い影響下にあつた社会主義体制の国で、日本は近くて遠い国でした。社会主

義体制と資本主義体制の対立でモンゴルと日本の交流は皆無に等しかったものの、モンゴル国立大学に日本語学科が開設されるなど、一九七二年の外交関係樹立を契機に、日本への関心は少しではあるが高まりつつある時代でした。

ただ、私のように資本主義国の外交官の若者がモンゴル人と自由に交際することはできませんでした。私は、いつも六年近いモンゴル勤務と本省での外務省時代の過半をモンゴルとの関係促進のために働きました。今年は、両

ちはとても親切で、日本に対しても高い関心をもっていました。そのおかげで、私は社会主义体制を憎むことがあります。でも、モンゴル人やモンゴルという国を嫌いになることはありませんでした。以来、四回のモンゴル勤務と本省での外務省時代の過半をモンゴルとの関係促進のために働きました。今年は、両

モンゴルに赴任して

最初の赴任は一九七七年のことです。飛行機で英國から北京まで行き、そこから四十二時間の列車の旅でモンゴルに到着しました。当時の中国では皆、人民服を着ていました。万里の長城を過ぎると車





清水 武則 氏



窓からは土塀の家が見え、人々の暮らしは貧しそうでした。今の中の发展からは想像もできないことです。貧しさはモンゴルでも同じでした。當時のモンゴル人は野菜をほとんど食べませんでした。モン

ゴル人は、草を食べる羊を食べているから、野菜を食べる必要はないということでした。当時モンゴルで栽培していた野菜は、キャベツ、ニンジン、ジャガイモの三種類ぐらい。

一般の店にある外国製品はロシア製品ぐらいで、西側のアルコール類や電気製品は「外貨ショップ」というドルでしか買えない店で売っていましたが、常に品薄でした。

当時の日本大使館員は、首都ウランバートルから飛行機で五時間以上かかるモスクワを経由し、更に三時間の空の旅をしてスウェーデンのストックホルムで、普通の肉や魚、野菜を購入して暮らしていました。今日、モンゴルでは野菜栽培は産業の一部となり、巨大なスーパー・マーケットやデパートには世界中のものが並んでおり、人々の生活も社会主義時代とは比較にならないほど豊かになりました。

モンゴルの民主化

モンゴルでは、一九九〇年に民主化運動がおこり、社会主義を放棄したので、人々は自由に外国に行けるし、反政府運動も自由です。東アジアでは珍しく、私たちと価値観を共有する国となりました。

他方で、政治的な自由や経済的な発展が、そのまま社会の発展や民族の発展につながっているかといえば必ずしもそうともいえない現状があります。民主化当時のモンゴルでは若者はロシアからの自決権の回復、市場経済への移行など、経済的な大混乱の時代でした。だが、若者には新国家建設の夢と希望があり、不満を言う者は少なかつた。民営化という大方針の下で国営企業などが払い下げられたが、その

大半を九〇年代に政権をとった政党関係者が安く購入し、今日のモンゴルの主要企業のルーツがそこにあります。民主化から三十年たって、モンゴルでは貧富の差が拡大し、民族の団結という言葉が死語になるほど、内部の対立が激しくなりました。

特に、民主化直後に地位を利用して払い下げを受け、豊かになった少数の金持ちに対する国民の怒りが、今になつて沸騰しています。また、残念なことに、為政者のモラルの低下や公務員の汚職などが国民の怒りに拍車をかけており、民主化から三十年を経て、モンゴル社会は迷路に入った感があります。

モンゴルと国際社会

そんな中でロシアのウクライナ侵攻でもモンゴルの国内世論が対立しています。ロシアはモンゴルの独立を支援した国であり、一九八九年までは最大のドナー国でした。他方で、ウクライナで学んだ者も沢山います。その中にはモンゴルの大統領になつた人も二人います。

しかし、国内での反ロシアの言動にはロシア派の強い反発があり、政府もロシアとの関係には最大の慎重さで対応しています。かつて、モンゴルを支配していた清朝（その後継の中華民国）から独立を勝ち得たのはロシアのおかげです。そんなロシアと民主主義国家の対立が激化し、更にロシアの十倍の経済大国になつ

た中国がロシアを支援するという構図があります。中国がロシアへの影響力を益々強める中で、モンゴルは清朝時代のように、再び中国の強い影響下に入るしかないという厳しい状況が生まれています。

モンゴルの自由や民主主義というものが、これから大きく変質しかねない時代を迎えていることを私は心配しています。が、日本に何ができるでしょうか。現在、日本には四千人ほどのモンゴル人留学生がいます。国家の発展に貢献するのは人であり、日本は引き続き、モンゴルの人づくりを地道に続けていくしかなりを思われます。つまり、教育こそがモンゴルにできる日本の最大の貢献だということです。



モンゴルの首都 ウランバートル

